

2024 年度 自己評価書

法人名	学校法人 藤天使学園
学校名	藤幼稚園

(教育方針)

「ひとりひとりの 咲くべき花を 咲かせよう

～ うつくしく やさしく しなやかに ～」

1 本年度の重点目標

- 1 建学の精神であるカトリックの精神に基づいた人間観を重視し、その具現化である園児一人ひとりをかけがいのない存在として大切にし、当園の特色である「モンテッソーリ教育法」の更なる内容の充実に努めます。
- 2 園児一人ひとりが自分の意思を使った生活・保育の充実のため教職員が一致協力して取り組みます。
- 3 保護者に対して教育理念や教育内容を伝え、理解と協力が得られるよう努めます。

2 評価方法

評価方法は、目的達成状況などに応じ 7 段階とする

評価方法	A	十分達成されている。
	A-	概ね達成されたが、工夫や改善する必要がある。
	B+	若干上回って達成されている。
	B	達成されている。
	B-	概ね達成されているが、工夫や改善する必要がある。
	C	取り組まれているが、成果が十分でない。
	D	取り組みが不十分である。

3 自己評価結果

分野	評価項目	自己評価	
		達成状況	実施状況と改善方策
教育課程・指導	1 建学の精神であるキリスト教や教育目標・方針について、教職員と定期的な話し合いなどを通じて理解を深めている。	A	今年度から、働き方改革として正職員を教務部・指導部・研究部に分け、仕事の内容を細分化しました。職員会議、部長会議、園務運営委員会等会議を繰り返し、建学の精神に基づいた教育目標、指導計画の作成を行いました。

	2 幼稚園教育要領を理解し、園児の特性に応じ、又、主体的な活動を尊重するとともに遊びを通して総合的な指導を行うなど、発達状況に即した指導を行っている。 3 年間の行事予定や指導計画などは、教職員と協力し、工夫を凝らし策定している。		園のグランドデザイン（令和6年度用）も作り、保護者に配布しました。 年間計画に基づいた宗教教育に取り組み、子どもたちにも神様を身近な存在としてお話ししています。 園児の教育にあたっては、一人ひとりの個性や特性を尊重し、入園から卒園までのスパンを想定し、教育にあっています。 特に、「モンテッソーリ教育法」に基づき、異年齢混合の縦割り生活形態・クラスのもと、園児一人ひとりの知的好奇心が自発的に現れる環境に配慮しています。 また、教材・教具を活用して自らの活動を自由に選択できるように努めています。 こうした教育については教員も経験を積み重ねていることから、その効果が表れていると感じています。 今後も教育内容の充実を図るため、教員の資質の向上と教材・教具の選定などに工夫を重ね取り組んでいきたいと考えています。
保健管理	1 学校保健計画を作成し、家庭や保健・医療機関と連携のうえ実施している。 2 日常の健康観察や疾病予防の取組みのほか、健康診断を定期的に行っている。	A	保護者や医療機関と連携を取りながら保健計画を作成し、健康診断などを実施しました。 手洗い、換気など気をつけて行い、感染予防に取り組んでいます。 保護者や医療機関などと連携し、園児の健康管理と疾病予防対策に配慮したいと思います。
安全管理	1 安全計画や防災計画を策定し、定期的に避難訓練などを実施し、安全対応能力の向上を図っている。 2 危機管理マニュアルを作成し、教職員が消防機器の安	A	危機に対する対応については、緊急の事態に備え、定期的な避難訓練のほか教職員による避難路の確保や消火器の点検と配置場所の確認など安全確保に留意しています。 今年度は、火災・地震、Jアラート、不審者対応等様々な避難訓練を行いました。また、園児引

	全点検や避難路確保などを行っている。		き渡しの訓練も行いました。様々な訓練を受けることで反省点も見つかり、今後に生かしていこうと思います。 園で交通安全教室を受けることで、交通事故などについても日頃から注意喚起を行っています。 今後も事故や事件に巻き込まれぬよう警察等諸機関とも連携し、教職員の危機管理に対する意識を高め、また保護者の協力を得ながらその防止に努めていきたいと思っています。
特別支援教育	家庭と連携を図るとともに園内支援体制の下、園児ごとの指導計画を作成している。	A	園児一人ひとりの健康状態などをしっかり把握し、保護者の理解や園内研修も行い教職員全員による共通認識、更には元女子大学の臨床心理士や札幌市の幼児教育支援員の先生方との連携など支援体制のもとで指導計画に沿って教育活動を実施しています。 これからも保護者や関係者と連携し、園児一人ひとりの個性や自立心などを尊重しながら保育にあたっていきたいと思っています。
組織運営	1 クラス担任や主任を配置するなどし、教職員相互の連携協力の下、園の適正・円滑な運営に努めている。 2 園児等の個人情報の取扱いと管理については、適正に行っており、また、保育に関わる公文書についても適切に管理している。 3 教職員の勤務時間やサービスなどについては、就業規則の定めに沿って適正に対処している。	A	園の教育方針のもと、教職員が適時話し合いや相談などを重ね、コミュニケーションを十分図り保護者等の理解と協力を得て円滑な運営に努めています。 個人情報の取扱いには細心の注意を払い、また就業規則に関する法令等の遵守については、教職員と定期的な話し合いなどを通じ適切な取扱いに努めており、これからもそのように対応していきたいと考えています。

研修(資質向上の取組)	園内外における研修については、教職員が積極的に参加し、能力・資質の向上に努められるよう環境を整えている。	A-	教師としての誇りを持ち、謙虚に、また、教育のプロとしての自覚と責任を持って教育活動をするのが大切なことと思っています。 また、園児はもちろんのこと保護者にも誠実に、また親切丁寧な対応で信頼を得られるよう努めています。 今年度も園内研修も重ね、一人一人の教員が保育に対して再認識し、日々努力してきました。今後も教職員として教育観や指導方法の向上を図るため、できるだけ参加できる環境作りと研修内容を教職員が共有する環境に努めていきたいと考えています。
教育目標・学校評価	1 教育目標を設定するとともに、全教職員による自己評価を実施し、次年度の教育活動の参考としている。 2 園に対する保護者からの意見・要望については、適時実施し、可能なものから順次取り入れるなどしている。	A	全教職員による自己評価については、毎年年度末を目途に実施し、学園のホームページで公表しています。 また、自己評価の結果を確実に次の年の保育活動に生かすことが大切であり、これからも保護者との信頼関係を大切にするとともに、意見やニーズにしっかり応え、充実した保育と円滑な運営に努めたいと考えています。 また今年から保護者アンケートを実施し、園に対する意見・要望を取り入れ改善しました。
情報提供	1 園児等の個人情報については、適切、かつ慎重に取り扱っている。 2 園だよりやホームページ、更には保護者との懇談などの機会を活用し、教育活動などの情報提供に努めている。	A	個人情報についてはその重要性を認識しており、不手際がないよう慎重に十分配慮し対応しています。 ホームページを更新し、最新の情報を発信するように心がけました。 また、パワーポイントを使い、園紹介や未満児クラスの紹介も行い、積極的に情報発信に努めました。
保護者・地域住民との連携	1 P T Aとの懇談やクラスごとの交流などを通じ、保護者と連携を図り、園の適正な運営に努めている。	A-	保護者の参観を増やすなどして、保護者が幼稚園に来る機会を増やしました。 避難訓練で、2次災害を想定し、藤天使学園の大学チャペルまで避難しました。園児は、園外に

	2 地域の文化や伝統に触れる機会を大切にしている。		出ることも、大学に行くことも初めてだったので緊張していましたが、貴重な体験をすることができました。今後も、地域でのふれあいを大切にしていきたいと思います。
子育て支援	園児の心身の健康と発達の状況などについて、保護者と共通理解を得るように努めるとともに家庭や専門機関と連携を図り適切な指導を図っている。 また、保護者の子育てへの不安、育児のニーズを理解しようと努めている。	A	園児一人ひとりの個性と自立心を大切に、保護者と連携を図り、また、教育専門機関などとも情報交換しながら保育の充実に努めました。 また、子育てに対する不安や質問に応えられるよう専門機関の指導などを受けて保護者に情報提供を行いました。
預かり保育	保護者の実情やニーズに応じ、家庭と連携を図りながら実施している。	A	保護者一人ひとりの実情やニーズに適切に対応することが大切と考えています。 また、預かる子供の健康状態などをしっかり把握しながら保護者と良く話し合うとともに、必要な情報を共有していきたいと考えています。 今年度は、長期休みも預かりを実施し、働いている保護者の方は助かっていた様子です。
教育環境整備	園児にとって安全でふさわしい施設・設備を整えるよう環境の整備に努力している。 また、主体的な活動を促すとともに季節や周囲の自然などを生かした環境に配慮している。	A	園児にとって何よりも安全な教育環境となるよう園庭管理、遊具の選定・配置や点検などに努めています。 また、運動会、降誕祭、卒園式などの実施にあたっては、教育理念や季節なども十分配慮した行事を盛り込んで教育活動を実施しており、今後もこうした基本的な考えで取り組んでいきたいと考えています。

4 総合評価

達成状況	計画に対する評価と課題に対する今後の改善方針など
A	今年度は、働き方改革として正職員全員を、教務部、指導部、研究部に分け、仕事を細分化しました。その分、会議を繰り返し、園の運営方針を固めていく1年でした。それぞれが、園の仕事に携わったことで、今回の評価がAになったように思います。

また、様々な行事も人数制限を増やし、できるだけたくさんの保護者が来園し、幼稚園の良さを知っていただくことができたように思います。保護者アンケートを一学期と二学期に実施し、質問に対しては真摯にお答えしました。

また様々な避難訓練を行いました、いくつかの反省点があるので、来年度はそこをふまえ訓練を続けていきたいと思っています。

今後も、園児一人ひとりの知的好奇心が自発的に現れる環境に配慮するとともに、教員の自主的な研究や研修参加による資質向上と、より効果的な教材の選定などに努め、園児自ら自由に個別活動する「モンテッソーリ教育法」の充実に努めていきたいと考えています。

また、来年度は幼稚園型認定こども園として新たなスタートになりますので、今年の反省を生かし邁進していきたいと思っています。